

29年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	8.3	0.0	△ 16.7
	ヒノキ	0.0	33.3	0.0
	カラマツ	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	0.0	△ 8.3	△ 25.0
	ヒノキ	0.0	12.5	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	30.0	20.0	10.0
	ヒノキ	16.7	0.0	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	16.7	0.0	△ 16.7

・スギの伐採動向は9月の増加から10月は横ばい、11月は減少に。ヒノキは9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。カラマツは9月の横ばいから10月、11月は減少に。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの出荷・販売動向は9月の横ばいから10月、11月は減少に。ヒノキは9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの手持立木在庫は3カ月連続増加。ヒノキは9月の増加から10月の横ばい、11月は再び増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドは9月の増加から10月は横ばい、11月は減少に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツの生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・昨年と違い、当地方では長雨もなく仕事は順調に推移している。今後、台風の直撃がなければ伐採動向は横ばいの見通し（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに伐採控え目（東北）。
- ・スギ、カラマツの間伐材を生産中（東北）。

(出材・販売動向)

- ・トドマツの出材調整はしていない（北海道）。
- ・昨年と違い、当地方では長雨もなく、仕事は順調に推移している。今後、台風の直撃がなければ出材動向は横ばいの見通し（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに伐採減のため、出材・販売動向はやや減少（東北）。
- ・出材調整はしていない（東北）。
- ・出材調整はしていない（関東）。
- ・大手製材所の手持材が少なくなったため、出材を急がされている（九州）。

(手持ち立木在庫)

- ・生産請負事業を実施中のため立木在庫は横ばいで変動なし（北海道）。
- ・手持ち立木在庫は、当月国有林の立木販売でトドマツを落札したのでやや増加する。翌月以降については、国有林の立木の予定価格が高くなってきているようなので、立木販売で応札しても落札できるか不透明である（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも立木買入はやや強め（東北）。
- ・スギ、ヒノキの間伐立木を購入したので在庫はやや増加（関東）。
- ・手持ち立木在庫なし（中部）。